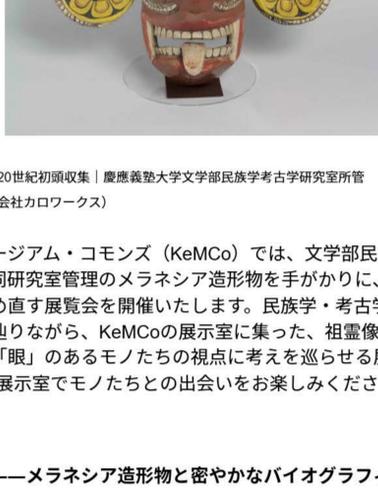




「モノたちの眼——メラネシア造形物と密やかなバイオグラフィ」展の開幕が迫っています。「眼をもつ」作品に注目し、モノと人間の関係性を見つめ直す展覧会です。来週いよいよ開幕、どうぞお楽しみに。

KeMCoの近況

【モノたちの眼——メラネシア造形物と密やかなバイオグラフィ】



仮面 | スリランカ | 20世紀初頭収集 | 慶應義塾大学文学部民族学考古学研究所管

撮影: 村松桂 (株式会社カロワークス)

慶應義塾ミュージアム・コモンズ (KeMCo) では、文学部民族学考古学研究所と共同で、同研究室管理のメラネシア造形物を手がかりに、モノと人間の関係性を見つめ直す展覧会を開催いたします。民族学・考古学の研究領域のキーワードを辿りながら、KeMCoの展示室に集った、祖霊像、神像、岩偶、仮面など「眼」のあるモノたちの視点に考えを巡らせる展覧会です。ぜひ、KeMCoの展示室でモノたちとの出会いをお楽しみください。

モノたちの眼——メラネシア造形物と密やかなバイオグラフィ

会期 | 2026年3月9日 (月) - 5月15日 (金)
休館 | 土日祝、3月23日 (月)・4月29日 (水) - 5月6日 (水)
特別開館 | 3月28日 (土)、4月18日 (土)、5月9日 (土)
会場 | 慶應義塾ミュージアム・コモンズ展示室 (三田キャンパス東別館)
入場 | 無料、予約不要

【関連プログラム】

ギャラリートーク

会期中、展覧会共同企画者・山口徹 (文学部 教授) と当館学芸員によるギャラリートークを行います。(どなたでもご参加いただけます。定員20名程度、先着順、事前お申込みの方優先)

日時 | 4月18日 (土) 14:00~15:00 (予定)

詳細・お申込みはウェブサイトをご覧ください。

主催: 慶應義塾ミュージアム・コモンズ、慶應義塾大学文学部民族学考古学研究所

協賛: 「海域アジア・オセアニア研究プロジェクト」(人間文化研究機構グローバル地域研究プログラム) 東京国立大学拠点

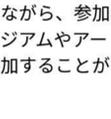
協力: 文部科学省科学研究費助成事業 学術変革領域研究 (A) 「マテリアイノベーション: 物心共創人類史学の構築」、慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート (KGR) 未来共生デザインセンター

共同企画: 山口徹 (文学部 教授)、臺浩亮 (KGR) 共同研究員

モノたちの眼——メラネシア造形物と密やかなバイオグラフィ

【卒業生学芸員による塾生向けトーク】ミュージアムで／とはたらく

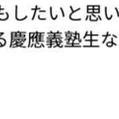
卒業生学芸員による塾生むけトーク



第4回 (3/25) ゲスト

東 詩優 さん

石橋財団アーティゾン美術館
学芸課司書



KeMCo Proactive Learning Club

ミュージアムで／とはたらく

ミュージアムやアートの現場には、学芸員をはじめ、さまざまな人々が関わりはたらいています。一方で、それぞれの現場でどのような仕事が発展しているのか、またどのようなファースト・ステップと今後のキャリアパスがあるのかは、外からはなかなか見えない領域でもあります。

そこで、今回のKeMCo Proactive Learning Clubでは、慶應義塾大学アート・センターとコラボレーションして、「ミュージアムで／とはたらく」をテーマにしたトーク・イベントを開催します。ミュージアムやアートの現場ではたらく慶應義塾の先輩がたをお招きして、仕事のエピソードやアドバイスを共有しながら、参加者同士が気軽に話し合える場ともしたいと思います。

ミュージアムやアートの現場で働くことに関心がある慶應義塾生ならどなたでも参加することができます。

第4回 (3/25)

東 詩優 さん (石橋財団アーティゾン美術館 学芸課司書) トーク

東 詩優 さんプロフィール

石橋財団アーティゾン美術館学芸課司書。
慶應義塾大学文学部前期博士課程修了後、東京都美術館美術情報室での勤務を経て2022年より現職。

日付 | 2026年3月25日 (水) 18:30~20:00

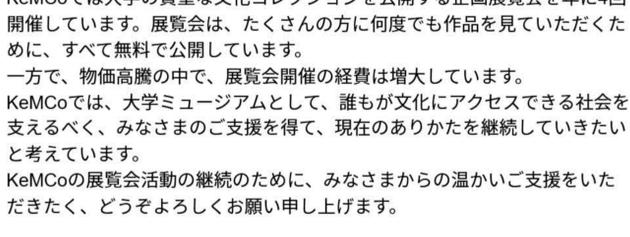
場所 | 三田キャンパス 南校舎 412番教室

塾生ならどなたでもご参加いただけます。

以下のウェブサイトから、当日開始時間前までに登録してください。

ミュージアムで／とはたらく

ご寄付のお願い



設置講座「KeMCo講座」では、慶應義塾所蔵の貴重書を用いた講義を展開しています。

KeMCoでは大学の貴重な文化コレクションを公開する企画展覧会を年に4回開催しています。展覧会は、たくさんの方に何度でも作品を見ていただくために、すべて無料で公開しています。

一方で、物価高騰の中で、展覧会開催の経費は増大しています。KeMCoでは、大学ミュージアムとして、誰もが文化にアクセスできる社会を支えるべく、みなさまのご支援を得て、現在のありかたを継続していきたいと考えています。

KeMCoの展覧会活動の継続のために、みなさまからの温かいご支援をいただきたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

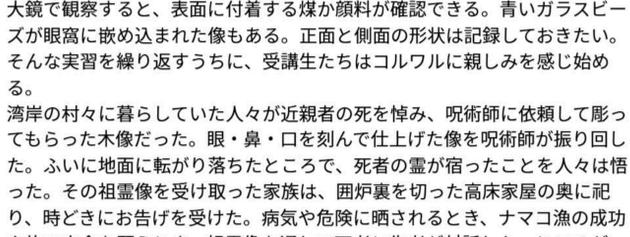
詳細とご寄付の方法は以下ウェブページをご覧ください。

皆様からの温かいご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

ご寄付のお願い

展示室より、推しモノ #45

3月9日 (月) より開催の展覧会「モノたちの眼」より、『祖霊像コルワル (Korwar)』をご紹介します。



祖霊像コルワル (Korwar)

インドネシアのパプア地方北岸に開くチェンデラワシ湾で1930年代に収集された小型の木製祖霊像である。当時は蘭領ニューギニアだった。蹲踞の姿勢で、細い胴体には不釣り合いな大頭がある。手に取ると思ったより軽い。拡大鏡で観察すると、表面に付着する煤が顔料が確認できる。青いガラスビーズが眼窩に嵌め込まれた像もある。正面と側面の形状は記録しておきたい。そんな実習を繰り返すうちに、受講生たちはコルワルに親しみを感じ始める。

湾岸の村々に暮らしていた人々が近親者の死を悼み、呪術師に依頼して彫ってもらった木像だった。眼・鼻・口を刻んで仕上げた像を呪術師が振り回した。ふいに地面に転がり落ちたところで、死者の霊が宿ったことを人々は悟った。その祖霊像を受け取った家族で、囲炉裏を切った高床家屋の奥に祀り、時にお告げを受けた。病気が危険に晒されると、ナマコ漁の成功や旅の安全を願うとき、祖霊像を通して死者と生者が対話した。ところが、キリスト教の布教が進むにつれて、祖先祭祀が禁止され、祖霊が宿ったコルワルは廃棄されていった。西洋からの来訪者向けに、土産用として粗雑な木像が造られることもあった。

90年以上前のこうした民族誌的情報にも触れるうちに、最初は複数ある観察対象の1つでしかなかったコルワル像が、日本に暮らす受講生たちにとっても、さまざまな手を経て今ここに居る特別なモノ(thing)へと変わっていく。そんな実習講義を目指している。

山口徹 (慶應義塾大学文学部 教授)



2023年度「民族学考古学研究法」受講生製作動画

空き地



展覧会「モノたちの眼——メラネシア造形物と密やかなバイオグラフィ」は、『眼』のあるモノたちが重要な要素のひとつです。それにちなんで、今回の空き地ではKeMCoのオフィスの『眼』のあるモノたちこと、ぬいぐるみを紹介いたします。写真はオフィスのあるぬいぐるみの一部です。大きく分けてミュージアムグッズ、他県のキャラクター、慶應義塾が企画したマスクコットがあり、KeMCoのスタッフたちがミュージアムショップや出張先で見つけたものを、「参考資料として」「目が合って」等の理由をつけて買い集めました。

さて、「モノたちの眼」展では、「祖霊像、神像たちにもし生命があるならば、いまここで何を見ているのだろうか？」という問いかけがなされます。同じことをぬいぐるみで考えてみると、ちょっとときどきします。通りすがりに撫でてみたり、SNSの被写体になつてももらったり...とかわいがっているつもりですが、それはあくまでも人間側からの見方にすぎません。でも、ぬいぐるみたちが、KeMCoの人間たちのことを親しみをもって見ていてくれたら、嬉しいかぎりです。

眞下菜穂 (KeMCo)

お知らせ

三田キャンパスでご覧いただける展示

[アート・アーカイブ資料展XXVIII:](#)

[「幽暗Shadow World-朦朧と立ち上がる土方巽の振付世界」](#)

1月19日 (月) ~ 3月14日 (土)

会場: 慶應義塾大学アート・センター

KeMCo Voiceでは皆様のご意見・ご感想を募集しております

KeMCo Voiceやミュージアム・コモンズへご意見・ご感想がございましたら、以下のアドレスまでお寄せいただければ幸いです。いただきましたご意見は匿名でご紹介させていただく場合がございます。紹介をご希望でない場合はその旨をお書き添え下さい。

> ご意見・ご感想は[こちら](#)

次回のKeMCo Voiceは2026年4月に配信予定です。

過去のニュースメールは[こちら](#)

